

ヒトプリオン病患者の髄液中のバイオマーカーの解析と次世代QuIC法の開発

研究分担者：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 保健科学分野 佐藤克也

2011年我々は異常型プリオンタンパク試験管内増幅法(RT-QuIC法)を発表した。リコンビナント蛋白の利用に関し、ヒトとハムスターと比較しハムスターのリコンビナント蛋白感度が低いためにハムスタープリオン蛋白を利用した1st generation QuIC法を改良した2nd generation QuIC法が報告され、現在主流となりつつある。さらにプリオンサーベイランス委員会における感度・特異度を各国間で比較できうるために2nd generation QuIC法の開発が求められている。

プリオン病のバイオマーカーの感度・特異度

	14-3-3 protein WB	14-3-3 protein ELISA	total tau protein	RT-QuIC assay	
				1st generation	2nd generation
感度	79.30%	81.40%	80.10%	70.60%	74.30%
特異度	81.20%	80.40%	86.80%	97.60%	100%

解説

1. 2nd generation QuIC法の確立を行っている。
2. RT-QuIC法1st generation QuIC法をと2nd generation QuIC法による感度・特異度の比較では大きな差はなかった。